

SPARC Japan 第 3 期事業のまとめ（案）

1. 第 3 期の基本方針と当初の課題意識

(1) 基本方針

「我が国の特色に見合ったオープンアクセスを実現する」ことを目標とする。

- ・我が国の特色に見合ったオープンアクセスを，学会と図書館が協力して推進する。
- ・学会と図書館を，オープンアクセス推進の車の両輪と捉える。

(2) 当初の課題意識

- ①高次の学術コミュニケーションを実現するための体制
- ②オープンアクセスについての共通理解とビジネスモデル
- ③日本の学術誌の基礎的情報の把握
- ④国内学協会誌の発信力強化

2. 第 3 期の活動の概要

(1) 日本版 UKSG 準備活動

[①②の解決策]

- ・研究者，学協会，大学図書館等のステークホルダーが協働する場を設けることを構想

- ・日本学術会議において科学者委員会の下に学術誌問題検討分科会が設置→研究者・学協会・大学図書館がともにこの分科会のもとで協力し、平成 22 年 8 月には『提言 学術誌問題の解決に向けて—「包括的学術誌コンソーシアム」の創設—』を刊行。
- ・意見交換の場としての SPARC Japan セミナーを開催。

(2) アドボカシー活動

[①②の解決策]

- ・ SPARC Japan ニュースレターの発行
- ・ SPARC Japan セミナーの実施
- ・専門的トレーニングコースの実施
- ・国際連携：SPARC US, SPARC Europe 等との連携を深める。

- ・ SPARC Japan セミナーおよび国際会議を開催
- ・ SPARC Japan ニュースレターを発行
- ・ MOU を締結した SPARC や SPARC Europe 等と連携
- ・ 2010 年 11 月 8、9 日には SPARC、SPARC Europe と SPARC Digital Repositories Meeting

(デジタルリポジトリ会議) 2010 を共催。

- ・ SPARC 主催のオープンアクセスウィークに SPARC Japan セミナーを開催。

(3) 日本の学協会誌基礎情報整備活動

【③の解決策】

- ・ SCPJ (学協会著作権ポリシーデータベース) を学協会と図書館の共同運営とする。
- ・ 学協会誌に関する定量的・基礎的情報の把握・評価のための調査・報告書作成。

- ・ 『日本の学術論文と学術雑誌の位置付けに関する計量的調査分析』平成 22 (2010) 年 12 月
- ・ 『あるべき学術情報発信の姿を求めて』平成 23 (2011) 年 8 月
- ・ 日本学術協力財団が刊行してきた『学会名鑑』がデータベース化されウェブで公開されるなどの周辺状況の変化もあり、SCPJ は機関リポジトリのツールとして発展。

(4) 電子ジャーナル出版活動の展開支援活動

【②④の解決策】

- ・ パッケージ化, ポータル化による情報発信力の強化
- ・ 国内外に対する合同プロモーションと契約数の増加
- ・ ビジネスモデルの確立を図るプロジェクト

- ・ 第 2 期までに英文パートナー誌 45 誌の電子ジャーナル化が完了
- ・ 海外および国内の学会等に出展する合同プロモーションを実施

(5) 国際連携活動

平成 23 年度から「国際連携の下でのオープンアクセスの推進」を実施

- ・ SCOAP³ (Sponsoring Consortium for Open Access Publishing in Particle Physics) の推進
- ・ arXiv.org の支援とりまとめ

(6) その他

- ・ 『国際学術情報流通基盤整備事業 (SPARC Japan) 活動報告書: 平成 15 (2003) 年度～平成 20 (2008) 年度』の発行

【参考資料】